



Washington Japanese Language School

(祝) 60 周年 ワシントン日本語学校

2018 年 6 月 30 日発行 第 13 号

ワシントン日本語学校

校長 佐藤 良明

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301) 962-7415

TEL (301) 962-7410



実りある楽しい夏休みに

一学期を振り返って

明日から、日本語学校も子どもたちが待ちに待った夏休みです。現地校ではすでに夏休みに入っていますが、2つの学校に通う子ども達にとって「日本語学校も夏休みだ!」と嬉しさは隠せないようです。楽しく安全で有意義なものになるように、保護者の皆様には、先週号で掲載させていただいた「夏休み・家庭学習のすすめ」を含め「夏休みの生活」について、各ご家庭で子どもたちとしっかり話し合いをしていただきたいと思います。

子どもたちが充実した日々を過ごせるよう、規則正しい生活リズムを守ることや適切な家庭学習の時間の確保へご支援をよろしくお願いいたします。

①命を大切に

交通事故や水難事故、誘拐などの人災、自然災害など、様々な事故や事件に巻き込まれないように注意しましょう。

②夏休みの目標を決めて

自由な時間がたくさんあるときこそ、「自主性を育てるよいチャンス」です。夏休みにしかできないことを目標に決め、やり遂げて自信につなげましょう。

自分の進路についてじっくり考えてみるのもよいでしょう。(いろいろな本や人の話を参考に)

また、家庭での自分の仕事を決め、家族の一員としての役割を果たすこともいいでしょう。

③規則正しい生活を

生活のリズムを崩さないよう気をつけることが大切です。自らの生活を設計し、規則正しい生活をすることで自主的・自立的な態度も身につきます。

④携帯電話やPC等情報端末でのトラブルを防ぐ

情報端末の取り扱いには、十分注意し、SNSを発端としたトラブルの被害者にも加害者にもならないよう気をつけましょう。

8月18日、子ども達が元気に日本語学校に登校して来ることを楽しみにしています。

4/7 1学期始業式



4/15 入園・入学式



4/14 さくら祭り



4/28 不審者対応避難訓練



5/12 特別授業



4/28 幼稚部仲良しピクニック



5/12 授業参観



5/26 卒業生・元在校生に会おう



6/9 青空ピクニックデ



6/2 学カテス





2学期制について考える

○2学期制（2期制）は、1年間で4月～10月上旬（前期）と10月中旬から3月（後期）の2期で構成しようとするものです。これによって学校の教育活動にゆとりを生み出し通常の学習をこれまで以上に充実させたり、きめ細かな指導と評価を行ったりすることが可能となります。

上記は、年間200日近くある日本の全日の小中学校で2学期制を導入している意義についてですが、年間41日しかない日本語学校の3学期制における指導と評価についても、一考を要する状況が昨今生じています。

○学校週1日制の下、日本語による日本の教育課程で学び、日本文化に関する教育を基本に据える中で、自ら学び自ら考える日本語力の育成や日本語の基礎・基本の確実な定着など補習授業校としての特色ある教育活動を展開しているところですが、家庭における国語環境の変化と多様化により、国語力の格差が生じ、学力の低下が懸念されています。学期末のまとめや単元テスト時期の6月中旬前後からは、現地校の夏休みに入ることもあり欠席者が多くなります。「クラスの半分しか出席しない」「クラス全員がそろって授業ができない」「授業の進行に支障が生じる」「1学期終業の日に『通知表』を渡せない児童生徒が、クラスに半分以上いる」など教員の声があります。

○中には日本に帰り、「日本での体験入学をさせながら我が子の日本語力のレベルアップを図りたい」と願う保護者の方も多く、本校としても協力しているところです。

1学期が13日しかない中での授業を考え、また、1学期末の成績評価をまとめる時期に欠席者が多いことを含めると、個々の子ども達をじっくり見つめて指導・評価するには短すぎ、学期として機能しにくい状況にあるということは否めません。

一つの学期が長くなることで、先生方は、長期的な視点で子ども達を見ることができ、その成長を評価できると言う意見があります。2学期制の導入のメリットは、一つの学期を長期化することによって、子どもと教員に時間的、精神的なゆとりを生み出し、それぞれの学校生活や学習指導、学校行事に生かしていくことを目的としています。

逆にデメリットもあります。子ども達の学習の様子や生活の様子を知らせる「通知表」の回数が3回から2回にな

○6月23日、第1回「校長との座談会」を開催いたしました。今回は、以下の内容について、情報提供させていただき、意見交換をいたしました。

- ・校舎内外の事故防止と安全対策の取り組みについて
- ・2学期制について

○参加された保護者の方々とざっくばらんな話し合いができました。特に、「2学期制について」学校の現状をお話し、学校の課題として次年度に向けて検討を始めたという説明をし、意見を伺いました。2学期制については、前向きな意見をいただきました。

ることと夏季、冬季の長期休業によって学期が分断されるということがあります。

○座談会の前に職員会議や教育人事部会で、メリットとデメリットを考え、次のことが話題になり検討いたしました。

「2学期制と3学期制との違い」

1. 変わらないこと

- ①幼稚部の教育活動は、2学期制の影響がほとんどないので、現状の教育内容で実施できる。
- ②小・中・高等部の教育内容（年間授業日数、時程、行事）の変更はない。
- ③各教科、合科の授業時数に変更はない。
- ④途中退学の場合の「通知表」は現行通りの対応とする。（6月末、12月末退学）
- ⑤授業料は年3回に分けて徴収する。

2. 変わる点

- ①通知表が3回から2回になるが、個別懇談会にて対応。
- ②個別懇談会を10月から5月下旬～6月上旬へ移動。（現地校が夏休みに入る前の欠席者が少ない時期に計画し、学習や生活の様子を伝えることにより、その後の夏休みや8月の授業日からの学習や生活にいかにつなげていか話し合う）
- ③学期毎の始業式（3回）、終業式（2回）が始業式（前期・後期）2回のみとなり、90分～2時間分の時数の確保ができる。

○先生方の2学期制導入についての考え、

導入したい39人（89%）、どちらでもよい5人（11%）
導入してほしくない0人（0%）でした。

（44人の先生方のアンケート結果から）

○2学期制を導入している補習授業校

北米31校の補習校中23校（74%）あります。3学期制は本校を入れて7校（23%）、1学期制を取り入れているところが1校（3%）ありました。

○3学期制から2学期制に移行するには、メリットもありデメリットもありますが、今後、さらに、教職員、運営委員会と検討会議を開催し、現状を少しでも改善する策を検討して参りたいと思います。保護者の皆様には説明会を開催し、改善策をお示ししながら意見交換をさせていただき、来年度の教育課程編成に向け、努めて参りたいと存じます。保護者説明会につきましては、9月を予定しております。